

平成 26 年度社会貢献活動について

平成 27 年 4 月 22 日
公益社団法人リース事業協会

■ 当協会は、平成 26 年度に次の社会貢献活動を行いました。

1. 東日本大震災復興支援活動

- ✓ 被災 3 県（岩手県、宮城県、福島県）の学校図書館にリース終了パソコン 68 台を寄贈しました。

2. 特別支援学校に対する支援活動

- ✓ 青森県、長野県、広島県、福岡県の特別支援学校にリース終了パソコン 50 台を寄贈しました。
- ✓ 障がいをもった生徒の就労教育を支援する活動として、東京都立港特別支援学校に作業学習の教材提供、ビジネスマナー・事務の講義を行いました。

3. リース業界の社会貢献活動事例調査

- ✓ 正会員 91 社の社会貢献活動の実施状況を調査し、その結果を協会ホームページ、月刊リースで公表しました。

※リース終了パソコンの寄贈活動は、平成 23 年度から実施をし、東日本大震災の被災地の公的教育機関を中心に累計で 1,152 台のリース終了パソコンを寄贈しました。リース終了パソコンは会員会社から提供を受けました（別紙参照）。

1. 東日本大震災復興支援活動

- ◆ 公益社団法人全国学校図書館協議会様の被災地支援活動（学校図書館げんきプロジェクト）と連携をして、同協議会様から紹介頂いた被災 3 県に所在する公的教育機関に設置された学校図書館にリース終了パソコンを 68 台寄贈しました。
- ◆ 寄贈したリース終了パソコンは、学校図書館の各種教育活動、児童・生徒の図書委員会活動などに活用頂いています。

<寄贈先の状況（例）>

- 震災を機に親が職を失う生徒の経済的ダメージは大きく、家庭にパソコンを設置している生徒が少ない。生徒がパソコンに触れる機会が少ないことは、子供の将来にとって好ましくない。
- 震災や原発事故を乗り越えて勉学・部活動に励んでいる生徒のため、少しでも情報収集活動を支援したい。学校の予算が減少する中で、新たにパソコンを購入することは大変困難な状況である。
- 全校生徒の 28%が仮設住宅で生活、就学支援を受けている生徒の割合も多く、家庭で読書用の本を購入することが困難な家庭も多い。学校が本との限られた出会いの場となっている。

<寄贈パソコンの活用方法（例）>

- 蔵書管理・資料のデータベース化を図ることで、利用しやすい図書館経営を目指す。また、生徒への開放を行うことで、総合的な学習や教科の中で調べ学習を行い、学習教材と学習支援環境の充実を図る。
- 情報収集の場としての図書館の機能を充実させ、様々な事情を抱えている生徒達が課題解決のために本とインターネット双方を使用し情報検索できる環境を整えたい。
- 学校図書館において、児童・生徒が調べ学習を行う時に使用する。図書委員会の活動において、図書に関する掲示物や「図書委員会だより」を作成するときに使用する。
- 生徒が自由に使用できる蔵書検索用のパソコンとして使用したい。

※すべての寄贈先の状況は月刊リース 2015 年 5 月号に掲載します。

2. 特別支援学校に対する支援活動

(1) リース終了パソコン寄贈活動

- ◆ 障がいをもった児童・生徒の教育活動を支援するために、青森県、長野県、広島県、福岡県の特別支援学校にリース終了パソコン 50 台を寄贈しました。
- ◆ 寄贈したリース終了パソコンは、特別支援学校の各種教育活動に活用頂いています。

<寄贈先の状況(例)>

- インターネット検索やドリル学習、専攻科の臨床実習において電子カルテ作成に用いるなど生徒が使用する授業用パソコンの稼働率は高いが、故障しているものもあるため、生徒用パソコンが常に不足している状況である。
- パソコン台数が少ないために、パソコン 1 台につき 2 名の児童・生徒に学習させざるを得ない状況であり、学習活動に支障をきたしている。
- 児童・生徒はパソコン授業にとっても好感をもっているが、パソコンが少なく、使用の不自由さをとても残念がっている。

<寄贈パソコンの活用方法(例)>

- インターネットを利用した調べ学習や余暇活動、マルチメディア教材を利用した課題活動や余暇活動、高等部においては、タッチタイピングの習得練習用、技能競技大会(アビリンピック)参加生徒の各種課題の練習用、情報セキュリティー等の繰り返し学習用として使用したい。
- 授業の中で進路に関する情報収集や産業現場等における実習の報告会のための提示資料の作成等に使用する。
- チラシやポスター等の作成を行っており、一人一台でそれぞれの個性ある作品制作のために使用したい。

※すべての寄贈先の状況は月刊リース 2015 年 5 月号に掲載します。

(2) 作業学習の協力

- ◆ 特別支援学校に通学する生徒は、知的障がいを持つ生徒が最も多く¹、知的障がいを持つ生徒の大半が、高等部卒業後、就職または社会福祉施設に入所・通所しています²。
- ◆ 当協会は、平成 26 年度から知的障がいをもった生徒の就労教育を支援する活動を行うこととし、東京都立港特別支援学校に作業学習の教材を提供して、同校高等部の生徒の作業学習の授業の補助を行うとともに、ビジネスマナー・事務の講義を行いました。
- ◆ 東京都立港特別支援学校からは、学校外の作業を行うことにより、就労に向けた緊張感のある作業学習の授業を行うことができ、年 6 回の授業の中で、主体的に正確に作業を行うことができたと評価頂きました。

<作業学習の内容>

- 作業学習教材として、以下の教材を提供。
 - ①会員会社への郵送物発送(725 通)
 - ②月刊リース 2014 年 5 月号の発送(143 通)
 - ③協会事務局が使用するメモ帳作成作業
- 年 6 回の授業の中で、情報コースの生徒(9 名)が作業を行った。
- 発送作業の事前準備、メモ帳作成は、事務・小売コースの生徒が作業を行った。

<学校の評価>

- 緊張感のある中で、企業就労に必要な事務作業の技能・知識を学ぶことができた。
- 同一の作業を繰り返すことにより、作業のスピード・正確性が向上した。
- 事務補助のスキルを向上させるために、発送業務以外の業務もお願いしたい。
- 発送作業の事前準備も、同一の作業を繰り返すことにより、正確性が向上した。

※作業学習の詳細は月刊リース 2015 年 5 月号に掲載します。

¹ 特別支援学校の高等部卒業生(平成 26 年 3 月) 19,576 名のうち、知的障がいのある卒業生は 85%となっています(文部科学省・学校基本調査)

² 知的障がいのある高等部卒業生(平成 26 年 3 月)のうち、31%が企業就労、64%が社会福祉施設等に入所・通所をしています(文部科学省・学校基本調査)。

3. リース業界の社会貢献活動事例調査

- ◆ 当協会では、リース及びリース事業を広く社会にご理解いただく活動の一つとして、リース業界における社会貢献活動の実施状況の調査^{*1}を行い、その結果を取りまとめました。
- ◆ 社会貢献活動を実施している正会員の総活動件数は 139 件となっており、金銭寄付 (49%)、物品寄付 (27%)、ボランティア・その他 (24%) の活動を行っています。東日本大震災関連の活動は、金銭寄付 (19%)、物品寄付 (9%)、ボランティア・その他 (8%) となっています (図 1 参照)。
- ◆ これらの活動を分野別にみると、災害・被災地支援 (46%) が最も多く、次いで環境保護活動 (25%)、社会福祉 (障がい者支援) (19%) が多くなっています (図 2 参照)。
- ◆ リース業界の特色を活かした活動として、リース終了物件^{*2}を利用した活動もあり、その中でも、様々な分野で活用できるパソコンが寄贈物品としてもっとも多くなっています。
- ◆ 平成 22 年～26 年の間にすべての活動が行われ、そのうち約 6 割の活動は平成 27 年以降も継続して実施する予定となっています (図 3 参照)。
- ◆ 活動方法は、グループ企業と連携 (47%) が最も多く、次いで自社単独 (37%)、非営利団体と連携 (22%) が多くなっています (図 4 参照)。

※ 正会員 91 社を調査対象として、各社における①社会貢献活動の取組み、②東日本大震災における復興支援活動の取組み、③社会貢献活動の公表方法についてアンケート調査を行い、その回答結果を取りまとめました (調査時期：平成 26 年 10 月、回答数 44 社)。

※ リース契約の期間が終了した物件 (リース終了物件) は、ユーザーからリース会社に返還いただいた後、リース会社においてリユース (再利用)・リサイクル (再資源化) を行っています。

図 1 活動内容

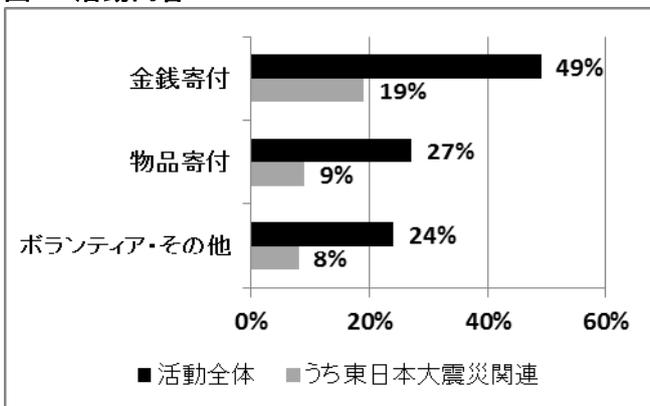


図 2 活動分野

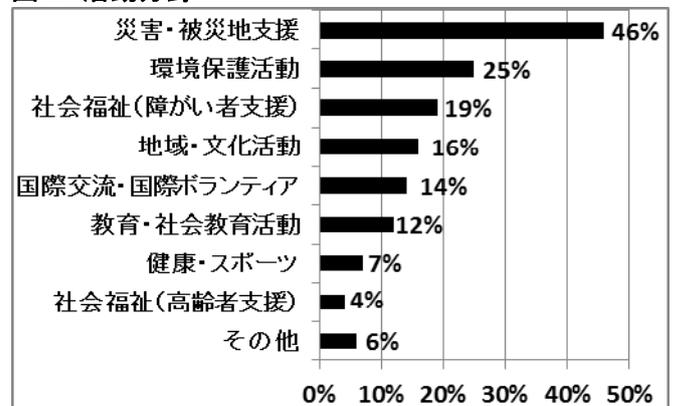


図 3 活動期間

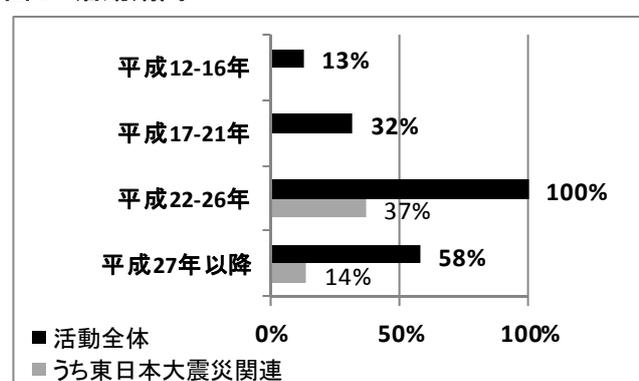
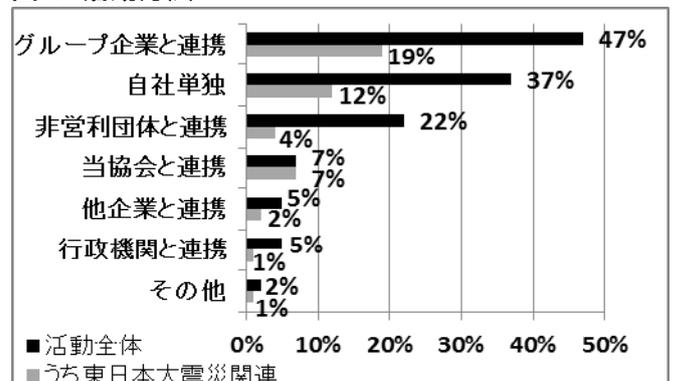


図 4 活動方法



※ 図 1～4 は総活動件数 (139 件) を母数とした各項目の割合を表します。

※ 調査結果の詳細は、当協会ホームページ、月刊リース 2015 年 2 月号に掲載しています。

平成 26 年度社会貢献活動参考資料

□リース終了パソコンの寄贈実績（累計）

| 寄贈先所在地 | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 累計 |
|--------|----------|----------|----------|----------|---------|
| 青森県 | — | — | — | 6 台 | 6 台 |
| 岩手県 | 43 台 | 45 台 | 11 台 | 35 台 | 134 台 |
| 宮城県 | 139 台 | 195 台 | 31 台 | 7 台 | 372 台 |
| 福島県 | 342 台 | 138 台 | 53 台 | 26 台 | 559 台 |
| 茨城県 | — | — | 37 台 | — | 37 台 |
| 長野県 | — | — | — | 20 台 | 20 台 |
| 広島県 | — | — | — | 6 台 | 6 台 |
| 福岡県 | — | — | — | 18 台 | 18 台 |
| 合計 | 524 台 | 378 台 | 132 台 | 118 台 | 1,152 台 |

*リース終了パソコンの寄贈に際しましては、日本マイクロソフト株式会社様の基本ソフト等（シチズンシップライセンス）を活用させて頂きました。

□リース終了パソコンを提供した会員会社名（平成 26 年度）

[正会員]

日立キャピタル(株)／JA 三井リース(株)／東京センチュリーリース (株) ／
 三菱UFJリース(株)／興銀リース(株)／IBJL 東芝リース(株)／東京 TY リース (株) ／
 日通商事 (株) ／芙蓉総合リース(株)／三井住友ファイナンス&リース (株)

[賛助会員]

中日本バンリース (株)

□平成 27 年度の社会貢献活動

①東日本大震災復興支援活動

東日本大震災の被災地域において教育支援・地域振興・社会福祉に関する活動を行う公的機関または非営利団体に対してリース終了パソコン等を寄贈します。

②特別支援学校に対する支援活動

特別支援学校における教育活動を支援するためにリース終了パソコン等を寄贈するとともに、障がいをもった児童・生徒の就労教育を支援するための活動を行います。